

地理学コース便り（平成 19 年度）

卒業生の皆様，お元気でお過ごしでしょうか。平成 19 年度の地理学教室の近況を報告します。国立大学が独立行政法人となってから，今年で 4 年がたち，それ以前の国立大学とは違った雰囲気（一口に言えば，縮小の中の競争）が固まってきています。それは，日本経済がバブル期とその崩壊を経験し，グローバル経済化（ネオリベリズム）の中で，巨額の負債を抱えた日本国家財政の脆弱さが，お茶大地理学教室という小さな世界にも浸透してきていることを示しています。この 1 年間の地理学教室の動向を要約すれば，これまで教室が受け継いだインフラ，知的・人的な資本を，伸ばせるところは伸ばして，次につなげようと試みた 1 年，となるでしょうか。詳しい動向は，地理学教室のホームページで頻繁に更新していますので，そちらからもご覧になってください。

<http://www.li.ocha.ac.jp/hum/chiriog/chiri.htm>

平成 19 年度の地理学教室のスタッフに，昨年度からの変更はありません。学部地理学コースでは，田宮，栗原，水野，宮澤の 4 名の教員が，そしてグローバル文化学環に石塚，熊谷の 2 名の教員が在籍しています（この他に，地理学がご専門ではありませんが，国際関係論で小林誠，国際協力論で荒木美奈子の両先生もおられます）。ここにあげた教員はすべて，大学院博士前期（修士）・後期（博士）において同一の専攻に属するため，地理学・地域研究の教員が，お茶大全体では充実してきたと言うこともできます。今年度の非常勤講師として，吉舗紀子（オフィス・ハメット），吉岡由希子（中央大），市野美夏（本学研究所），中山大地（首都大），渡邊真紀子（東工大），長尾洋子（和光大），谷川尚哉（中央

学院大），寄藤昂（芝浦工業大），伊藤寿和（日本女子大），叶内敦子（明治大・非），柴山明寛（情報通信研究機構），佐々木善子，菊池美千世，石出みどり（以上，本学附属）の各先生のご協力を得て，カリキュラムを充実することができました。講師の先生方に，この場を借りて感謝いたします。

地理学教室の事務を担当するアカデミック・アシスタントにも，昨年からの変更はなく，倉本さん，沼畑さんの強力 O G によって教室が支えられています。特に，病氣療養中の栗原先生に代わって，在校生に対して，先輩として，女性として，気軽に話し相手になってくださり，男性教員では目が行き届かないケアをしていただきました。教室のインフラ面では，大きな変化がありました。文教育学部 1 号館の建物が耐震基準を下回ることが判明し，このため 8 月から大騒音と粉塵の中，耐震工事が行われました。それに合わせて，地理学教室も整備し，修士院生控え室と博士院生控え室を 701 室に統合し，代わりに学部生控え室を従来の 3 倍の面積に広げ，明るくしました。また，長い間，未整理のまま放置されていた図書室の雑誌・図書類を，この耐震工事に合わせて整理し，一部を図書館本館に O P A C 登録をして移管しました。女高師以来の貴重な蔵書が多々あり，これらが O P A C で検索可能となりつつあることで，地理学教室の財産を生かせたと考えています。

地理学教室の財産ということであれば，704 室に収蔵された外邦図があります。このコレクションの全容と目録作りについては，宮澤さん他による本誌前号の論文がありますので，ご覧ください。その後，教室から本学の特別予算を申請して，外邦図そのもののデジタル化の作業を，宮澤さんを中心に

行っています。外邦図研究会(代表:小林茂・大阪大学大学院教授)とも連携しながら、また学内では図書館本館とも連携しながら、この貴重なコレクションの今後を考えていく必要があります。研究費助成ということであれば、本学の21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」が5年間の最終年度にあたり、ここに地理学関係から3名(石塚, 熊谷, 水野)が参加して、各種の報告書, 本を成果として出版しつつあります。また、学内の特別教育研究経費「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」(略称CSD)に教室から水野, 宮澤が参加し、ここに在籍院生や卒業生を加えて、教室の情報インフラの整備と共同研究を進めています。COEもCSDも、本学のホームページから、その経過を知ることができます。

地理学教室の学生数は、平成19年度において、学部4年22名, 3年14名, 2年6名, 大学院博士前期課程2年6名, 1年3名, 博士後期課程は4名在籍しています。学部4年生, 修士2年生のほぼ全員が卒業・修了となり、それぞれの分野に進学・就職を決めています。また、学部3年生で1名がカナダ留学, 1名が韓国留学から帰国, 学部4年生が中国, 英国への留学からそれぞれ1名帰国と、毎年数名の留学生を出しています。ただし全般的に、学部生も院生も、学部地理学コースの教員数の大幅減(グローバル文化学環への2名移籍も含め)によって、学生数が減ってきています。来年度の2年進学者の数も残念ながら4名となりました。ただし、博士後期課程の受験者では今年度は多く、来年度からの院生室は、少しにぎやかになるかもしれません。博士学位取得見込みの数も今年度は多く、うまく公開発表までこぎつければ、論文博士3本, 課程博士2本が、地理学教室関連では学位取得となります。今年度も、人間文化創成科学研究所の研究者として、齋藤元子, 西律子(お二人は、平成18年度の本学学位取得

者), 市野美夏(本学非常勤講師)の3名が在籍され、地理学教室のさまざまな演習, 合同ゼミなどで、学生指導に協力していただきました。

なお、1988年から20年にわたって、本学地理学教室の自然地理学の教育・研究を担当して下さった田宮兵衛教授は、今年度をもって定年となります。教室や学生に対する勤勉さと、諧謔を駆使した独特の話術は、教員のみならず、卒業生及び在校生に一瞬の余裕を与えたものと推察します。本誌本号は、田宮先生を慕う多くの卒業生が論考を寄せていて、また申し遅れましたが、「お茶の水地理」が刊行されてから初めて、OGによる完全編集で本号を皆様に送り届けています(森本泉, 吉田道代, 石川百合子, 影山穂波, 片岡久美: 全員が研究に携わっています)。田宮先生には、独立行政法人化してからの激変の中の地理学教室の運営で、定年間際まで尽力して下さったことに、感謝いたします。

最後になりましたが、卒業生の皆様のさらなる活躍を祈願し、本学地理学教室を、小規模ながらも楽しく地理学を学べる充実した教室になるよう、これからも努力していきます。

(2008年2月記/コース主任 水野 勲)

[2007年度巡検一覧] (*は、グローバル文化学環との相互乗り入れによる)

- 5月26日 大久保(熊谷)*
- 6月2日 神田川(水野)
- 7月7日~11日 大巡検: 輪島(水野・田宮)
- 7月14日 高尾山の自然(叶内・田宮)
- 8月1日 神奈川県愛川町(篠塚)*
- 10月20日 大久保(徐)*
- 10月27日 多摩ニュータウン(宮澤)
- 11月23日 江東(水野)
- 12月2日 山谷(石塚)*
- 12月22日 代々木(三浦)*
- 1月30日~31日 高尾山観測(田宮)